関連団体

# 2020年「ガラス産業連合会新年会」報告

（一社）ニューガラスフォーラム事務局

## Report on the New Year Party 2020 of the Glass Industry Conference

New Glass Forum

左から，日本ガラスびん協会，電気硝子工業会，板硝子協会、硝子繊維協会，日本硝子製品工業会の各会長（ニューガラスフォーラム会長はご欠席）

この冬は，全国的にも記録的な暖冬となっていますが，今年も，恒例となりました「ガラス産業連合会（GIC）新年会」が，2020年1月24日㈮に東京都千代田区の如水会館にて開催されました。例年通り，経済産業省を始め，学界，会員企業，関連団体，報道機関等，昨年をやや上回る365名の参加があり，盛大に開催されました。

この新年会は，ガラス産業連合会に所属する板硝子協会，硝子繊維協会，一般社団法人日本硝子製品工業会，日本ガラスびん協会，電気硝子工業会，一般社団法人ニューガラスフォーラムの6団体で主催しており，今年は日本ガラスびん協会の吉永茂樹専務理事の司会により行われました。

加盟6団体の，石塚久継日本ガラスびん協会会長（石塚硝子株式会社代表取締役社長執行役員），有岡雅行電気硝子工業会会長（日本電気硝子株式会社代表取締役会長），フランシス・ショレー硝子繊維協会会長（マグ・イゾベール株式

会社代表取締役社長），森重樹板硝子協会会長（日本板硝子株式会社取締役代表執行役社長兼CEO），山村幸治日本硝子製品工業会会長（日本山村硝子株式会社代表取締役社長執行役員）の各会長紹介（鈴木洋ニューガラスフォーラム会長（HOYA株式会社取締役代表執行役最高経営責任者）はご欠席）に続き，ガラス産業連合会の石塚久継会長から挨拶がありました。挨拶の要旨は次の通りでした。

新年早々，アメリカとイランの間で緊張が高まったが，その後，少々和らぎ，また，昨年来の米中貿易摩擦についても交渉の糸口が見えてきた。しかし，イギリスのEU離脱，韓国の大統領選挙，香港立法会の議会選挙，そして，11月にはアメリカの大統領選挙があり，先の読めない世界情勢が続く年になりそうである。日本国内では，昨年，地球温暖化の影響か，度重なる台風や集中豪雨で各地に大きな被害をもたらした。また，オーストラリアの森林火災は，高温と乾燥という気候により，大きな規模となっている。このように，地球温暖化が影響している自然災害が世界各地で起こるようになった。もう一つの環境リスクとしてクローズアップされているのがプラスチックによる海洋汚染である。地球温暖化と海洋汚染への対応は，ガラス産業はもとより，すべての産業が自分のこととしてとらえ，自主的な活動によって対応するという新たなステージに入った。

ガラス産業連合会は，ガラス素材の可能性を追求し，革新的な技術開発や製品つくりを行うことで，こういった問題に取り組んでいきたい。ガラス素材の特性を活かしたリサイクルシステムは，持続可能な社会の構築に向けた，大変重要な役割を果たすものと考える。

ガラス産業連合会は，2000年3月の設立以来，加盟する6団体が結集し，ガラス素材が果たすべき環境問題や省エネ問題を中心に，関係省庁，学界の皆様のご指導のもと，環境技術部会，プロセス・材料技術部会，環境広報部会を中心に，各部会が協調して，継続的な活動を行ってきた。2019年の活動の一端を紹介したい。

環境技術部会は，RoHsやREACHといった化学物質の規制が厳格化されていく中で，変化する世界の動向を調査し，情報共有を行ってきた。特に，欧州REACH規制におけるUVCB物質の見直しは，その動向を注視し，変化があったときは速やかな対応を行っている。世界の環境に関する法規制についても，欧州におけるホウ素排出規制や，廃プラスチック規制の情報を収集し，共有を行った。

環境広報部会は，消費者にガラスを身近に感じて頂くための広報活動として，ホームページのコンテンツの質的向上と拡充に取り組んできた。また，2016年から出展している「青少年のための科学の祭典」では，展示ブースに400名を超える人が来場され，ガラス産業各団体の製品を身近に感じて頂くいい機会となった。現在は，ガラス産業連合会におけるSDGsへの取り組みと提言について検討を始めた。

プロセス・材料技術部会は，大学の研究室との技術交流会を開催したほか，日本セラミックス協会との共催により，今回で15回目となるガラス技術シンポジウムを開催した。当日は200名を超える参加者があり，交流も含めて大変賑わったと聴いている。また，本年12月には，AFPG国際会議が，日本で初めて開催されることになり，GICシンポジウムは併催されることになる。

このように，ガラス産業連合会は，6団体共

通の課題である「環境問題」,成長戦略としてのプロセス技術や新材料技術といった「技術開発」,消費者の皆様にガラスを身近に感じて頂くための「広報活動」に注力してきた。引き続き,産・官・学の連携のもとで活動を行っていきたく,変わらぬご支援,ご協力をお願いしたい。

次に,ご来賓代表として,上田洋二経済産業省大臣官房審議官からご祝辞があり,その要旨は次の通りでした。

令和初めての新年であり,7月にはオリンピック・パラリンピックの開幕となる。先進技術で,様々な課題に挑戦すること,また,次なるイノベーションをどれだけ生み出せるかが問われることになる。

安倍内閣発足後,一貫して,経済最優先で様々な施策に取り組んできた。確実に経済の好循環は生まれてきていると考えている。一方,様々な不確定要因,米中対立やイギリスのEU離脱,中東情勢の不安定化などで,世界の経済社会の不確実性が増している状況にある。こうした不透明な世界にあってこそ,我が国は,自由貿易の旗手として,自由で公正なルールに基づく国際経済体制を主導していくことが重要である。

目まぐるしい変化に直面する令和に時代に,経済発展の鍵は,デジタル技術,そして,データを最大限活用していくことだと認識し,これによって,新たなビジネスやサービスを生み出すことである。デジタル市場のルール整備や5G時代の情報通信技術の確立など,大胆な施策を進めていき,イノベーション創出の後押しをしっかりと行っていきたい。

ガラス業界におかれては,昨年,米中の貿易摩擦などで,海外の需要の減少や原燃料の高騰化,人手不足,物流費の上昇,台風等の自然災害の影響など,業界を取り巻く環境は厳しい年だったと認識している。

そうした中,昨年の12月に,板ガラスメーカーから国内建築用ガラス事業に関しての生産の合理化に向けた発表があった。今から5年前であるが,産業競争力強化法に基づく調査を行い,厳しい市場環境に応じた競争力強化の必要性を提示した。今回,板ガラス業界が大きな一歩を踏み出し,その機運が拡がっていくことで,業界の新陳代謝の促進を期待する。

昨年,新たに10月10日が窓ガラスの日と制定された。一般消費者の安心な生活実現のための重要なPR活動になると認識している。ガラス瓶をはじめとする製品のリサイクル,窯の熱回収効率の改善等$CO_2$削減に対する環境面に配慮することに積極的に取り組んでいることに敬意を表したい。

この場を借りてお願いがある。一点目は,下請業者へのしわ寄せ防止について,である。昨年の4月から,関係関連法の一部が施行され,大企業の時間外労働規制が開始されている。実質的な対価を伴わない納期短縮発注など,下請事業者へのしわ寄せが発生しないよう,改めて会員企業の皆様へ周知働きかけをお願いしたい。もう一点は,就職氷河期世代の積極的な採用について,である。人手不足が続く現在は,就職氷河期世代の方々を活用する機会を増やす絶好のタイミングである。是非,意欲能力を持つ方々の積極的な中途採用を促進するなどの協力をお願いしたい。

その後,有岡雅行ガラス産業連合会副会長から,今年も厳しい状況が続くと思われ,ガラス産業に携わっておられる皆様にも影響があると

思われる。しかしながら，ガラスは世界最古の材料であり，いまだに輝いているのがガラスである。新しい技術が出てきたら，必ずそれにふさわしいガラスが求められる。ガラス産業界全員が力を合わせて，より新しいものへチャレンジしたい，との挨拶と乾杯の発声により歓談となりました。

午後4時から始まった今年のガラス産業連合会新年会は瞬く間にお開きの時間となり，最後に，平尾一之ガラス産業連合会理事による，以下のような中締めの挨拶がありました。

国連ではある年を「国際○○年」とする制度がある。その中で，2022年を国際ガラス年にしようとする活動が世界規模で行われている。日本でも，日本セラミックス協会やニューガラスフォーラム，ガラス工芸学会を中心に賛同を集めている。現在，60件あまりの賛同がある。2022年を是非，国際ガラス年にしたいと思うのでよろしくお願いしたい。

来年のガラス産業連合会新年会は，2021年1月22日㈮に開催される予定となっています。今年以上に，盛大に開催されることを祈念したいと思います。